

= 大学ゼミ募集 =

<活動期間：2021年12月～2022年2月>

ゼミ学生による 舞鶴引揚記念館 Facebook 記事制作 ～オンラインで学び記事を制作する～



<背景と主旨>

京都府の北側、日本海に面したところは「海の京都」と呼ばれる地域。京都府に海があったの？と驚く人もいますが、昔は、京の都の「食」を、海の幸、山の幸で支えた地域です。明治時代になると、海軍の機関である鎮守府が置かれ、軍港都市として発展していきます。軍の港、「軍港」と呼ばれる場所は日本に4つあります。横須賀、呉、佐世保、舞鶴と。この旧軍港市の4市には当時の名残りのある街並みなどが多く、5年前に文化庁所管の「日本遺産」に認定されています。



その中で今回は、舞鶴市だけが持っている「シベリア抑留と引揚」という歴史にフォーカスします。知らない人も大勢いますが、戦後、大陸にいた多くの日本人が当時のソ連軍によってシベリアに抑留され、極寒の地での強制労働により多くの人が日本に帰れず命を落としています。舞鶴は、日本海側ということで、多くのシベリア抑留者が引き揚げられてきており、舞鶴市民は、温かく彼らを迎え入れていました。その数、66万人。昭和33年まで、引揚事業は実施されていました。

そんなシベリア抑留と引揚の地である舞鶴市には、抑留者のシベリアでの労苦を物語る資料を収蔵している舞鶴引揚記念館があります。収蔵するシベリア抑留と引き揚げに関わる資料は、2015年10月10日に、『舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録』(Return to Maizuru Port—Documents Related to the Internment and Repatriation Experiences of Japanese)として、ユネスコ世界記憶遺産(Memory of the World※)に登録されています。世界がその資料の価値を認めたことになります。

※参考 <https://is.gd/z9Ns1z>



舞鶴引揚記念館では、シベリア抑留と引揚の史実の若い世代への継承事業を進めてきております。そこで、今般、大学のゼミ活動の一環として「舞鶴引揚記念館の Facebook に投稿する記事を制作することを目標に据え、日本の重要な史実の1つであるシベリア抑留と引揚についてネットで情報収集しオンラインで学ぶ」というプロジェクトをスタートさせることになり、第1回のプロジェクトに参画する大学のゼミを、3団体、募集することになりました。

Facebook【舞鶴引揚記念館 Maizuru Repatriation Memorial Museum】

<https://www.facebook.com/maizuruhikiagekinenkan>

<プロジェクトの概要>

プロジェクトの全体の流れは以下のようになります。

～大学ゼミの募集→書類選考→決定～

- 1) オリエンテーション (Zoom)
- 2) 舞鶴引揚記念館に関する情報収集 (各自) と発表 (Zoom)
- 3) 舞鶴引揚記念館の職員とのオンラインワークショップ (Zoom)
- 4) Facebook 記事の作成と投稿 (各自事務局とやり取りしながら)
- 5) 代表者による舞鶴引揚記念館訪問と Facebook 記事の作成
- 6) まとめ (Zoom)

<エントリー要領>

- ・募集ゼミ数 最大 3 団体
- ・参加資格 大学 (短大含む) の指導教官のいるゼミ活動であること
※ゼミの中の学年を問わず有志の学生のエントリーでも可
- ・選考方法 書類選考→ゼミ代表者名での応募理由と参加目的 (400 字程度)
- ・締め切り 2021 年 11 月 28 日
- ・エントリー方法 以下の内容を、ゼミ代表者 (指導教官でも可) が指定アドレスにメール送信
送信先 mrrmm@x-border.co.jp
<件名>「舞鶴引揚記念館 Facebook 記事制作」プロジェクトエントリー
<本文>
 - ・大学および学部学科名
 - ・ゼミ名
 - ・指導教官名と連絡先 (メールアドレス、携帯電話)
 - ・ゼミ代表者 (有志の場合はその代表者) 名と学部学科、学年、
 - ・参加ゼミ生の氏名 (ふりがな)
 - ・応募理由と参加目的 (400 字程度) ※PDF ファイル添付でも可
- ・参加ゼミの決定 2021 年 12 月 3 日 (金) ※エントリー者にメールで通知します。
- ・参考 今年度実施した目白大学の学生の取り組みの写真を参照してください。

<各プログラムの説明>

1) オリエンテーション

参画するゼミ全員参加で実施。プロジェクト主旨と活動全体の説明を行います。

2) 舞鶴引揚記念館に関する情報収集と発表

舞鶴引揚記念館は、公式 WEB サイトの他、Facebook、Twitter、YouTube で日ごろから情報発信活動をおこなっています。

またネット検索でもさまざまな情報が入手できます。それを見ながら、まずは「舞鶴引揚記念館って何?」という視点で情報収集を自分なりにしてみてください。その後、ゼミ単位で、感想などをオンラインで発表していただきます。



3) 舞鶴引揚記念館の職員とのオンラインワークショップ

舞鶴引揚記念館、引揚、シベリア抑留などのキーワードへの基本理解が概ねできてきた段階で、記念館の職員によるオンラインワークショップをゼミ単位で開催します。



4) Facebook 記事の作成と投稿

2, 3 を経過すると、自分なりの思いが徐々に明確になってくると思います。「～ゼミの(氏名)です。」から始まる、舞鶴引揚記念館に関する Facebook 記事の作成をしていただきます。事務局、記念館と確認し、完成したら、順次投稿していきます。



5) ゼミ代表者による舞鶴引揚記念館訪問と Facebook 記事の作成

それぞれのゼミから代表 1 名に、舞鶴引揚記念館に行ってください。現地では 1 泊 2 日の行程。旅費は、往復地上移動 + 宿泊費が 5 万円以内であれば本人負担はありません。実際に、記念館を視察し、関係者を訪問し、多くの知識と刺激を受け、そこからさらに Facebook 記事を作成していただきます。



6) まとめ

全体の振り返りをゼミ単位で、オンラインで実施します。

<想定スケジュール>

- 1) オリエンテーション (Zoom) →12 月 1 週目
- 2) 舞鶴引揚記念館に関する情報収集 (各自) と発表 (Zoom) →12 月 2 週目
- 3) 舞鶴引揚記念館の職員とのオンラインワークショップ (Zoom) →12 月 3 週目
- 4) Facebook 記事の作成と投稿 (各自事務局とやり取りしながら) →年末年始を挟んで 1 月末までに
- 5) ゼミ代表者による舞鶴引揚記念館訪問と Facebook 記事の作成 →2 月中旬に
- 6) まとめ (Zoom) →2 月末

詳細なスケジュールは記念館職員およびゼミ学生の予定を勘案して確定していきます。尚、Zoom を使ったオンラインでの会議等は、平日の 18 時以降にセットする予定です。

お問合せ等は事務局までメールでお願いします。

事務局：クロスボーダー株式会社

担当：菅原

mrrmm@x-border.co.jp

以上